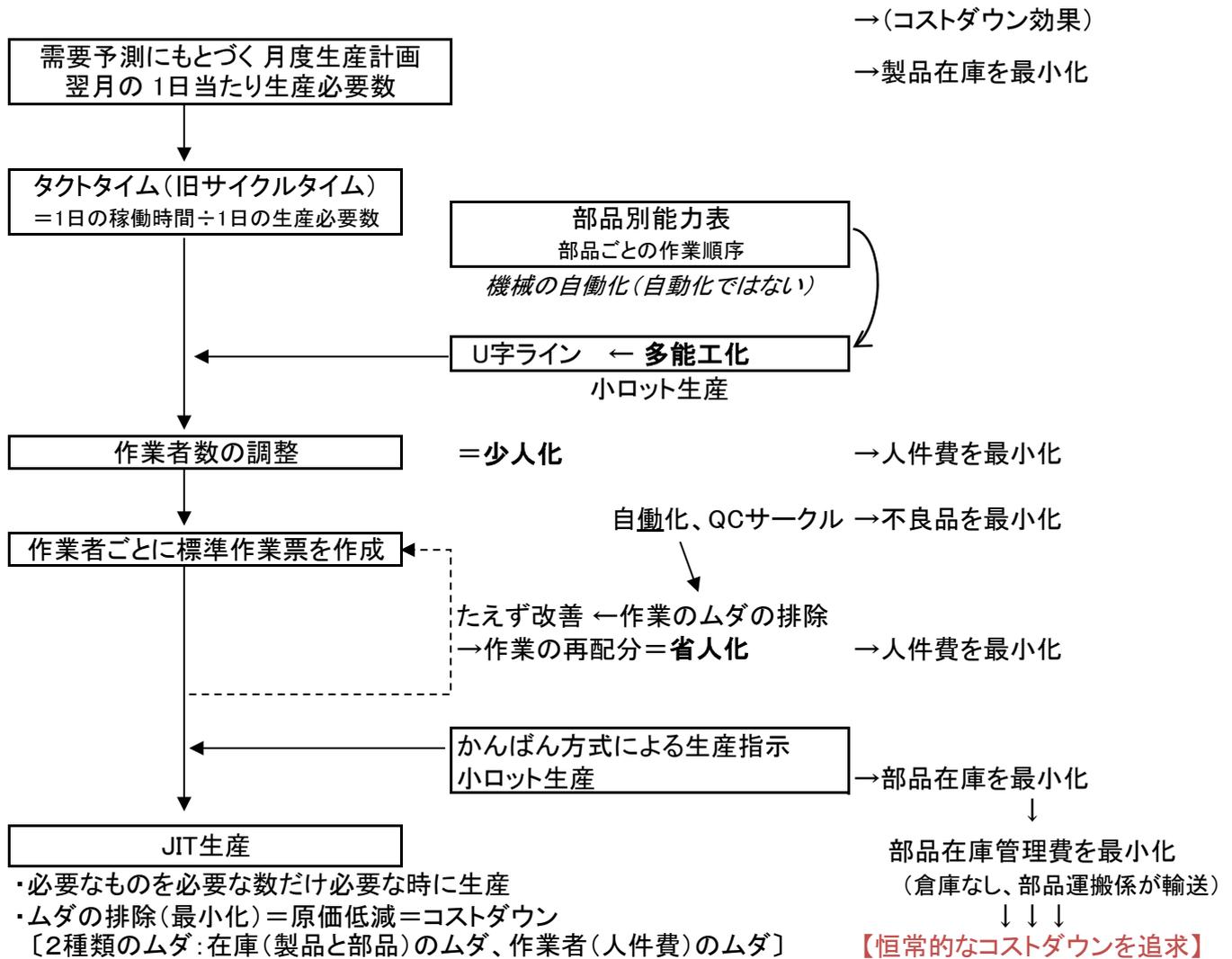


## トヨタ生産方式の骨格

— 少人化、省人化、かんばん方式による恒常的コストダウン —



### 需要予測

・量産車種であるカローラ全体の生産計画は、まずその月の需要予測量に基づき月単位の生産数量計画が立てられる。これをその月の稼働日数で単純に割ることによって、1日当たりの生産台数を求め、毎日この台数を生産する。(門田安弘(2006)『トヨタプロダクションシステム』94頁)

・当該月次の前月後半には、各生産ラインは種類別に1日当たりの生産量を知らされる。(同上97頁)

### 少人化

- ・生産必要数の変更(タクトタイムも変更)にともなう作業員数の調整
  - ・生産減少(=タクトタイムを延長)に対応して作業員数を最小に。
  - ・生産増加(=タクトタイムを短縮)の場合でも作業員数の増加は極力抑える。

### 省人化

- ・生産必要数が前月と同じ(タクトタイムも同じ)ときに行なう作業員数の削減
- ・各作業員が作業のムダを排除し、各作業員の作業時間にばらつきが出たら、タクトタイムに合わせて調整=正しい作業の再配分

2種類の ショウジン化 の前提条件は、作業員の多能工化 (単能工でも熟練工でもない)

↑  
労働市場が職種別ではない → 労働組合が職務別組織ではない